

## 地域づくり表彰

特定非営利活動法人土佐の森・救援隊/木の駅ひだか  
(高知県日高村)

特定非営利活動法人  
土佐の森・救援隊/  
木の駅ひだか



## 森林資源を活用した持続可能な

## コミュニティサービスの構築

駅長  
かたおか まさのり  
片岡 正法

### 1. 日高村の概要

日高村は、県都高知市より16kmの距離にありながら、身近に自然の豊かさを感じることができます。例えば、水質日本一に輝き、仁淀ブルーと称される「奇跡の清流仁淀川」では、屋形船の運航も始まりました。



仁淀川

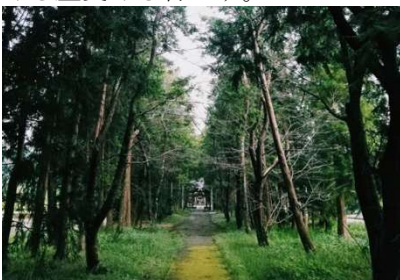
特産品として、高糖度トマトのブランドである「シュガートマト」の生産が盛んに行われており、広大な茶園を有する霧山茶業組合では、お茶の栽培から加工までが行なわれています。

村内には、製材所が3箇所もあり、効率的な集材所機能として好立地です。



県内の位置関係

文化伝統としては、土佐二宮をいただいている小村神社に奉納されている国宝「金銅荘環頭大刀」や国の重要文化財である「木造菩薩面(2面)」、長宗我部元親の伝説がある「竜石神社」などがある歴史ある村です。



小村神社

### 2. 活動開始の背景・経緯

当団体は、NPO 法人土佐の森救援隊が平成 23 年度まで実施した木質バイオマス発電実証事業を契機に発足しました。同事業では、県内の大規模林業、小規模林業にかかわらず木材の受入をしており、特に小規模林業においては、県内でも数少ない受入先として機能していたため、事業終了時に、継続して木材の受入をしてほしいという要望を多くいただきました。私たちも、せっかくできた小規模林業家との関係がここで終わってしまうのは高知県の林業にも望ましくなく、なによりも「もったいない」という思いから有志 15 人で NPO 法人土佐の森・救援隊の下部組織(独立採算制)として、今の団体を立ち上げることとなりました。「木の駅ひだか」が始まり、今では設立から 8 年目になります。



取組一覧

### 3. 活動の広がり

新エネルギー・産業技術総合開発機構の事業への協力をきっかけに、地域の個人所有者との連携が始まり、当初は15人程度の林家の連携でしたが、現在は100人程度まで増加しています。この増加は、「自分の山の資源がお金に変わる」と意識が変わった結果であり、設立当初から8年かけて培ってきた地域の個人所有者とのこれまでの連携を活かし、林地残材を収集・運搬して薪を生産する事業を展開しています。森林整備および薪販売(企業へのチップ材販売も含む)の実績額については、年間

1,500万円前後となっております。運営資金として主な収入になっています。それらを軸に、会員からの要望や活動を通じて、「薪から地域に」地域通貨事業や「いつまでも生まれたところで生きる」ための中山間地域の生活支援に加えて、近隣の学校へ環境学習の提供など継続した取組が拡大しています。



環境学習の様子



活動拠点周辺の風景

### 4. 継続性

当該団体の活動は8年以上継続しています。「個人所有林の活用による林業の再生」を目指し、活動していくためには、経済性を持った活動の普及が必要であり、当該団体の活動についても、林地残材を薪事業による収益から、ボランティアスタッフへの還元、さらには地域商店への還元と、木を軸にした経済循環を確立しています。

また、活動内容や仕組みについては、継続していくことができるところまで成長したので、今後は、広く活動の趣旨や実績を周知していくことで、関係者を増やすとともに、継続していくための体制(継承)を日高村と連携して構築していく予定です。

す。



薪製造の風景

## 5. 地域資源の活用

高知県は、日本一の森林率84%を誇り、高度経済成長期に林業が盛んでしたが、外材の流入などに伴い、価格の低迷から衰退していき、それにより、手入れが行き届かなくなり、山が荒廃（緑の砂漠化）しています。地域の担い手の減少や市場が縮小したために、企業や行政が率先して取組むことが難しくなっている中で、森林整備の観点から小規模林家の役割は非常に重要です。設立当初より、小規模林家の取組の受け皿として当該団体は機能しており、地域資源である木材のほとんどをこの小規模林家から収集運搬して薪加工をしています。ニッチな産業ながら林業の再生には必要な取組になっています。



薪保管場所の遠景

## 6. 創意工夫

NPO 法人立ち上げ当初から、林業自体が元々ニッチな市場であるため、参加者による口コミにより参加ボランティアが増えていった経緯があります。市民ボランティアの参加意欲と地域経済の循環を目的とした「モリ券」の導入は、当時から先進的な取組であり、地域通貨として8年以上も地域に根づいた活動となっています。根づいた要因としては、例えば、森林整備活動や薪生産のボランティアへのお礼に「モリ券」を渡し、それを利用して必要な薪と交換する動きや、帰路にある精肉店やスーパーなどでその日の食料を購入したりと参加いただいたボランティ

ア自身の使い勝手の良さを優先して改善してきた結果だと感じています。

また、県外からの活動視察もあり、その受入も行っています。例えば、「軽架線」方式による森林整備の実践的な研修を行っている他、地域住民からの要望に応じて、日照不足解消のための伐採対応なども行うなど、地域や関わる人たちの要望から活動を広げています。



モリ券サンプル

## 7. 成果

薪の販売は良心市方式をとっています。また、材木の持ち込みについても、ボランティアや利用者の都合のいいタイミングで持ち込める申告制になっており、「良心から生まれる活動」により継続した取組になっています。



良心市のシステム

加えて、これまで、高知県内の整備が遅延した森林を対象に適切な整備を推進し、環境の保全や向上を行うことを目的に活動を続け、また、かつては当たり前だった「自分の山は自分で管理する」「自分一人ではできなければ寄り合いで助け合う」という考えを取り戻し、自伐林家による小規模林業を復活させることを目標にしてきました。薪生産販売は小規模林家の大事な収入源になっており、連携した個人所有者は、「自分の山の資源がお金に変わる」と意識す

るようになりました。これにより、今日まで、途切れることなく取組を継続することができ、かつ、モリ券により地域経済に30万~40万円/月程度の地域循環を創出することができています。

また、今回の受賞をキッカケに日高村のふるさと納税返礼品として登録することができ、地域貢献の活動が広がっています。



ふるさと納税返礼品 梱包状態

## 8. 課題と展望

今後、参加ボランティアの確保が一番の課題です。広域的な活動の普及に成功していますが、周辺の農家や林家への木材買い取りの周知によって集材量が増加し、薪生産が追いつかなくなってきており、また、ボランティアメンバーも高齢化してきているため、若い世代の参加が必要となっています。今まで蓄積してきた森林整備活動であるため、今後も継続して里山の再生や地域住民の生活に貢献したいと考えており、若い世代の関心をひきつけ、継続的な活動への参加をどのように促していくか、という取組が今後の課題になっています。また、今後の団体の展望としては後継者不足の解消をしつつ、昨今のアウトドアブームに乗り、活動の主要な収益源である薪事業の拡大とふるさと納税に登録したことでできた村内事業者との関係性から連携した事業を検討していき、より人々に地域の木材を身近に感じてもらえるよう取組を進めていきます。



ボランティアメンバーと集合写真